



SHOGAKUKAN  
RANDOM  
HOUSE  
ENGLISH-  
JAPANESE  
DICTIONARY

〈パーソナル版〉

Edited by  
SHOGAKUKAN  
In Close Cooperation with  
RANDOM HOUSE

SHOGAKUKAN



〈パーソナル版〉全1巻

小学館ランダムハウス英和大辞典

SHOGAKUKAN RANDOM HOUSE  
ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

定価 9800円

昭和48年10月1日 (全4巻) 第1版 発行 ©  
昭和50年12月1日 パーソナル版 (2冊組) 第1刷 発行 ©  
昭和54年1月10日 パーソナル版 (全1巻) 第1刷 発行 ©  
昭和54年4月27日 パーソナル版 (全1巻) 第3刷 発行 ©

編集

小学館ランダムハウス  
英和大辞典編集委員会

発行者 相賀徹夫

発行所 株式会社 小学館

東京都千代田区一ツ橋2-3-1  
〔郵便番号〕101 〔振替〕東京 8-200  
編集 東京(03)230-5671  
〔電話番号〕製作 東京(03)230-5333  
販売 東京(03)230-5746

印刷 大日本印刷株式会社

特選本文用紙 本州製紙株式会社

表紙クロス 東洋クロス株式会社

製本 中央精版印刷株式会社

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版者の権利侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。

造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの場合は、お取り替えいたします。

# 凡 例

## I. 見出し語 (ENTRY WORD OR WORDS)

本文には一般の英語語句のほか、固有名詞・常用外来語句・略語・接頭辞・接尾辞・連結形・造語要素などを見出し語として示し、すべてアルファベット順に配列した。

### A. 字体 (Typeface)

1. 一般の見出し語は、立体のボールド体で示した。  
**bake-ware** [...] *n.* ...
2. 外来語または外来語句、書物などの表題、印刷の際イタリック体を使用するもの、タイプ印字の際下線を施すものなどは斜体のボールド体で示した。  
**bas-so-ri-lie-vo** [...] *n.* (*pl.* **bas-si-ri-lie-vi**) 《イタリア語》…  
**hôt-tel de ville** [...] (*pl.* **hôt-tels de ville**) 《フランス語》…  
**Mádamé Bôvary** 「ポバリー夫人」: Gustave Flaubert 作の小説 (1857).

### B. 分綴法 (Syllabification)

分綴は、印刷およびタイプ印字の際に用いられる米国式の方綴の原則に従い、これに若干の修正を行なった。

1. 2音節以上から成る単一語の見出し語には中丸点 (・) で分綴を示した。  
**ac-claim** [...] *v.t.*  
**ac-com-plish** [...] *v.t.*
2. 見出し語の方綴は、原則として最初に示した発音に対応させた。  
**sta-tus** [stéitəs, stétəs|stéi-] *n.*  
**re-cord** [v. rikórd|kód; *n.*, *adj.* rékórd|kəd]  
《注》status では、[stétəs] と発音される場合は分綴は stat-us となり、record では名詞または形容詞として用いられるときは、rec-ord と分綴するが、この区別は示していない。
3. ハイフンの付いた見出し語では、そのハイフンが、そこにあるべき分綴点 (・) を兼ねている。  
**in-law** [in:lɔ:]
4. 2行にわたる場合、行末の切れ目は分綴点 (・) の代りにハイフンで示した。  
**di-cho-ro-di-phen-yl-tri-chlor-o-eth-ane** [...] *n.*  
《注》その語本来のハイフンがある位置と行末の切れ目が一致する場合は二重ハイフン (=) を用いて区別した。
5. 2語以上から成る連語見出し語を構成する個々の単語が独立の見出し語として掲げられている場合は分綴を示さなかった。またいくつかの同形異義語 (D. 参照) では、初出のときだけに分綴を示した。  
**Bar-ba-ry** *n.*  
**Bárbarý Státes**  
しかし、次のような借用語ではすべて分綴を示した。  
**lap-sus ca-la-mi**  
**lap-sus lin-guae**  
**lap-sus me-mo-ri-ae**

## C. 強勢 (Stress)

2語以上から成る連語見出し語では、連語としての強勢を、第1強勢符 (´) と第2強勢符 (˘) を用いて、それぞれの語の母音の上に表示した。

1. 連語見出し語で強勢が [˘˘] となる型では、それぞれの語にほぼ同等の強勢が置かれることを示す。  
**góod will**  
**Babylónian captivity**
2. 第1の語が第2の語に比べて、かなり弱い強勢を持つ場合には [˘˘] の型を用いた。  
**Nèw Lón-don**  
**Mòunt Clém-ens**
3. 連語見出し語に示された強勢は、それぞれの語が独立して用いられるときに持つ強勢とはおのずから違うものである。  
**Mon-te-rey** [mántərəi|mən-] *n.*  
**Mónterey Báy**
4. 地域によって、または人によって異なる強勢を持つ見出し語には最も頻度の高い強勢を示した。  
**cóttage chèese**  
**créam sóda**  
**hót ròd**
5. 語義によって強勢の型が異なる連語見出し語については、その別を示した。  
**party line** [1, 2で párti lán; 3, 4で párti lán]
6. 次の連語見出し語には強勢は示さなかった。  
発音記号に示された強勢どおりに発音されるもの:  
**dum spi-ro, spe-ro** [dum spí:rou, spéi:rou; *Eng.* dʌm spáirou; spí:rou|spíərəu]  
ローマ数字を含むもの: **Henry V**  
略語を含むもの: **St. George's Channel**  
アルファベットの文字を含むもの: **K ration**

## D. 同形異義語 (Homographs)

1. つづりは同じでも語源・語義が異なる語は、見出し語の右肩に小数字を付けて区別した。  
**bow**<sup>1</sup> [bau] *v.i.*  
**bow**<sup>2</sup> [bou|bəu] *n.*  
**bow**<sup>3</sup> [bau] *n.*
2. 次のような場合は肩付き小数字を付けなかった。  
(1) 大文字で始まるものと小文字で始まるもの:  
**thorn** [θɔrn|θɔ:n] *n.*  
**Thorn** [tɔrn] *n.*  
(2) 区別的発音符 (diacritical mark) のあるものとなないもの:  
**pique**<sup>1</sup> [pi:k] *v.* (**piqued, piqu-ing**), *n.* — *v.t.* 1 …  
**pique**<sup>2</sup> [pi:k] *n.* 《トランプ》 = pic.  
**piqué** [pi:kéi, pi:-|pi:kéi; *Fr.* pi:kéi] *n.*  
**coupe**<sup>1</sup> [ku:p] *n.*  
**coupe**<sup>2</sup> [ku:p] *n.*  
**coupé** [ku:péi|˘-; 1, 5でまた ku:p] *n.*
- (3) 立体的のものと斜体的のもの:  
**beg** [beg] *v.* (**begged, beg-ging**) — *v.t.* …  
**beg** [beig; *Eng.* beg] *n.* 《トルコ語》 = bey.

## E. 追込み見出し語 (Run-on Entries)

- 見出し語の派生語で意味が自明なものは、語源欄のあとに、(一)に続けてボールド体でアルファベット順に掲げ、品詞記号のみを示した。  
**bear-a-ble** [...] *adj.* ... [BEAR<sup>1</sup> + -ABLE] —**béar-a-ble-ness** *n.*
- 同一品詞中に2つ以上の別形があるときは頻度の高い順に掲げた。  
**de-lec-ta-ble** [...] *adj.* ... —**de-léc-ta-ble-ness**, **de-léc-ta-bil-i-ty** *n.* —**de-léc-ta-bly** *adv.*
- 見出し語の発音から推して自明であるものには発音表記を省略し、強勢のみを示した。ただし自明でないものには発音を表記した。  
**de-fraud** [dɪfrɔːd] *v.t.* ... —**de-fraud-a-tion** [dɪfrɔːdeɪʃən] *di.*, **de-fraud-ment** *n.*
- 2語以上から成る追込み見出し語には強勢のみを示した。  
**toe-dance** [...] *v.i.* ... —**tóe dâncer**.

## F. 欄外見出し語 (Undefined Entries)

- anti-, pre-, un- などの造語要素や接頭辞と結合して構成された派生語のうち、それぞれの要素に分解してみることによって、語義がおのずから明白となる語については、語義・解説を与えず、欄外にアルファベット順に掲げた。
- これらの見出し語には分綴と強勢を示し、品詞記号を付記した。
- あるページに掲げられた欄外見出し語の範囲は、そのページに収められている本文の見出し語の範囲と一致するようにして、検索の便を図った。

## II. 相互参照 (CROSS REFERENCES)

異形や別名のある場合、現代英語として最も一般的に用いられる見出し語でその語義を解説し、頻度の低い異形や別名などはそこを参照するようにした。また関連のある見出し語間でも相互に参照できるようにした。

### A. 異形 (Variants)

- 見出し語の異形や別の言い方は(また...)という形でボールド体で示した。これらが独立の見出し語として掲げてない場合は適宜、分綴・強勢・発音などを示した。  
**pre-em-i-nence** [...] *n.* ... (また **pre-ém-i-nence**, **pre-ëm-i-nence**)  
**Ched-dar** [...] *n.* チェダーチーズ... (また **Chéddar chéese**)  
**val-or** [...] *n.* ... (また《特に英》**vál-our**)
- ある異形がすべての語義に適用されるとき、あるいはその中の2つ以上の語義に適用されるときは解説のあとに示した。  
**cab-a-la** [...] *n.* **1** ... **2** ... (また **cabbala**, **kab-ala**, **kabbala**) [< ML cab(b)ala ...]  
**Bern** [...] *n.* **1** ベルン: スイス西部の都市で同国の首都... **2** ベルン: スイス西部の州... **3** 男子の名。 (また **1, 2** で **Berne**)
- ある異形が一つの品詞だけに適用される場合は、その品詞記号の直後に解説に先立って示した。  
**eaves-drop** [...] *v.* (**-dropped**, **-drop-ping**) ...  
— *n.* (また **eaves-drip** [iːvzdrɪp] ...)
- ある異形が一つの語義だけに適用される場合は、その語義の解説の末尾に示した。ただし最終の語義の場合は、その語義番号のあとに、解説に先立って示した。  
**Brah-man** [...] *n.* (**pl. -mans**) 『ヒンズー教』 **1** ブラフマナ, ブラモン(婆羅門): ... (また **Brahmin**) **2** (また **Brahma**) ブラフマン, 梵(梵): ...
- 使用頻度の少ない異形や別の言い方では語義は示さず、=を

用いて語義・解説を掲げた見出し語を参照させた。

**nick-nack** [...] *n.* = knickknack.  
**béach wágon** (米) = station wagon.

## B. 別名 (Alternative Names)

- 地名・人名・作品名などの固有名詞は、米英で一般的に用いられている呼称を主要見出し語とし、そこで解説を与えた。別名については、地名の場合は解説のあとにボールド体で、人名の場合は訳語に先立ってかっこの中に斜体で示した。  
**Czech-o-slo-va-ki-a** [...] *n.* ... ... 公式名は **Czechoslovák Sôcialist Repúblic**. (また **Czèch-o-Slo-vá-ki-a**)  
**Clem-ens** [...] *n.* **Samuel Lang-horne** [...], ("Mark Twain"), クレメンズ(1835-1910): ...
- 別名・古代名・原地名なども見出し語に掲げ、訳語として日本で一般的に用いられている呼称を示した。なお語義・解説を与えてある主要見出し語をボールド体で示して参照の便を図った。  
**Lu-té-tia Pa-ris-i-ó-rum** [...] **Paris** の古代名。  
**Fi-ren-ze** [...] *n.* フィレンツェ, **Florence** のイタリア名。  
**Twain** [...] *n.* **Mark**, マークトウウェイン: **Samuel Langhorne Clemens** の筆名。

## C. 変化形 (Inflected Forms)

変化形を見出し語として掲げたときは、それぞれの原形をボールド体で示して参照させた。

**ran** [...] *v.* **run** の過去形。  
**o-per-a** [...] *n.* 『おもに音楽』 **opus** の複数形。

## D. 略語 (Abbreviations)

略語を見出し語として掲げたときは、それぞれの元の形をアルファベットの順に示した。なお記号化した略語についても一般の略語と同じに扱った。

**N.Y.C.** (略) **1** New York Central. **2** New York City.  
**ca.** (略) **1** cathode. **2** centiare. **3** (また **ca**) 『ラテン語』 *circa* およそ, 約 (about).

## III. 発音 (PRONUNCIATION)

発音は見出し語の直後に [ ] に入れて示し、原則として使用度順に併記した。

### A. 発音表記

- 発音記号には IPA (International Phonetic Alphabet) を用い、米音を先に示し、縦線を引いて次に英音を示した。  
**hot** [hat|hət]  
**an-swer** [ənsər, á:n|á:nsə]
- 併記された発音記号中の一部が先に示された発音記号と共通する場合は、原則として音節単位でハイフンによりその部分を省略した。
- 単に強勢だけが移動する場合は発音記号を併記せず、音節数だけハイフンを並べ、その上に強勢符号を置いた。  
**blas-pheme** [blæsfɪm, ʌ-| - ʌ]  
**mi-grate** [maɪgreɪt| - ʌ]  
ただし品詞によって強勢が移動する場合はハイフンによる表示は行なわなかった。  
**a-bout-face** [ə.əbʌtfeɪs, - ʌ ʌ; v. əbʌtfeɪs]
- 発音の区切りは、原則として見出し語の分綴に一致させたが、原則に従わなかった場合もある。  
**no-ta-tion** [nəʊteɪʃən|nəʊ-]  
**leath-er-wood** [leðərwʊd| - ðə-]  
**ab-o-ral** [æb.ə.rəl, - ʌ:r| - ʌ:r]

5. 品詞によって、また語義によって発音が異なる場合は次のように示した。

**close** [*v.* kləʊz | kləʊz; *adj.* 1-26, 29, 30 で kləʊs | kləʊs, 27, 28 で kləʊz | kləʊz; *adv.* kləʊs | kləʊs; *n.* 1, 2, 5, 6, 8, 9 で kləʊz | kləʊz, 3, 4, 7 で kləʊs | kləʊs]

6. ある専門分野における特殊な発音は次のように示した。

**south-west** [səʊθwést; 《海事》 səʊwést]

**A-bra-ham** [éibrəhæm, -ham] [éi-, 《聖書》 á:-]

7. 連語見出し語において、発音が別の場所で示されている単語には強勢のみを示して発音表記は省略し、見出し語として出していない新出語についてのみ分綴と発音を示した。

**e-lec-tro-or-gán-ic ché-mistry** [ɛləktroʊr-  
gənik|-trəʊs:-]

8. 発音に強勢のある場合および特に注意を必要とする場合は次のように示した。

**and** [ænd; 《弱》 ənd, ən, nd, n; 《p, k のあとで》 m, 《k, g のあとで》 ɪ]

**her** [hə:r|hə; 《弱》 hər, ər|hə, ə]

## B. 強勢符 (Stress Marks)

強勢符は強音節の母音の上に付けた。第1強勢 (primary stress) には (´) を、第2強勢 (secondary stress) には (˘) を付けた。

**at-ti-tude** [ætɪtʊd, -tjʊd|-tjʊd]

ただし単音節語には強勢符を付けなかった。

**board** [bɔ:d, bɔ:d|bɔ:d]

## C. 外国語の発音 (「発音解説」参照)

使用者の便利を考えて IPA 方式で示した。立体で掲げた見出し語は近似の英語音のみで示したが、斜体のボールド体で掲げた見出し語には原音と英語化された発音を併記した。

**ab o-rig-i-ne** [a:b ɔ:rɪgɪnɛ; *Eng.* æb ɔ:rɪdʒənɪ;  
ɔ:rɪdʒ-|ɔ:rɪdʒɪ-] 《ラテン語》

## IV. 品詞の表示 (PARTS OF SPEECH)

1. 見出し語の品詞の表示は、語義に先立って斜体の略記号を用いて示した。

<i>n.</i> ……noun	<i>adj.</i> ……adjective
<i>pron.</i> …pronoun	<i>adv.</i> ……adverb
<i>v.</i> ……verb	<i>prep.</i> …preposition
<i>v.t.</i> ……transitive verb	<i>conj.</i> …conjunction
<i>v.i.</i> ……intransitive verb	<i>interj.</i> …interjection
<i>auxiliary v.</i> ……auxiliary verb	

接頭辞・接尾辞は、それぞれ *pref.*, *suffix* とし、略語は《略》とした。

2. 見出し語が2つ以上の品詞を持つときは次のように示した。

- (1) 品詞によって発音が異なる場合:

**in-tro-vert** [*n., adj.* ɪntrəvɜ:t|ɪntrəʊvɜ:t; *v.* ɪntrəvɜ:t|ɪntrəʊvɜ:t] *n.* **1** 《心理》 … **2** 《話》 … **—** *adj.* 《心理》 … **—** *v.t.* **1** … **2** 《心理》 …

- (2) 品詞による語形変化を示した場合:

**brave** [breɪv] *adj.* (**brav-er**, **brav-est**), *n., v.* (**braved**, **brav-ing**) **—** *adj.* … **—** *n.* … **—** *v.t.* …

## V. 変化形 (INFLECTED FORMS)

名詞・代名詞・形容詞・副詞および動詞の変化形で注意すべきものは、それぞれ品詞記号の直後にボールド体で ( ) 内に示した。ただし、この場合ハイフンを用いて見出し語と共通の部分省略したものもある。

### A.

不規則な変化形はすべて示したが、規則変化をする語でも、誤解を

避けるためにその変化形を掲げたものもある。

1. 子音+y で終わる名詞・形容詞・動詞:

**stead-y** [stéɪdɪ] *adj.* (**stead-i-er**, **stead-i-est**), *interj., n.* (*pl.* **stead-ies**), *v.* (**stead-ied**, **stead-y-ing**), *n.* **—** *adj.* …

2. e で終わる形容詞・動詞:

**fine** [faɪn] *adj.* (**fin-er**, **fin-est**), *adv., v.* (**fin-ed**, **fin-ing**), *n.* **—** *adj.* …

3. 最後の子音を重ねて変化形をつくる形容詞・動詞:

**big** [bɪg] *adj.* (**big-ger**, **big-gest**), *adv.* **—** *adj.* …

**ad-mit** [ædmɪt|əd] *v.* (**-mit-ted**, **-mit-ting**) **—** *v.t.* …

4. 語中のつづりを一部変えて変化形をつくる名詞・動詞:

**half** [hæf, ha:f|ha:f] *n.* (*pl.* **halves** [hævz, ha:vz|ha:vz])

**steal** [sti:l] *v.* (**stole**, **sto-len**, **steal-ing**), *n.*

5. 原形を全く変えて比較級・最上級をつくる形容詞:

**good** [gʊd] *adj.* (**bet-ter**, **best**), *n., interj., adv.*

6. 本来の英語でない名詞:

**a-lum-na** […] *n.* (*pl.* **-nae** [-ni:])

7. 複数形が単数形と同形の名詞:

**Chi-nese** […] *n.* (*pl.* **-nese**), *adj.*

8. 星座のラテン語名で属格を示す場合:

**O-ri-on** […] *n.* (2で *gen.* **Or-i-o-nis** […]) **1** 《ギリシア神話》オリオン: … **2** 《天文》オリオン星座: …

《注》この属格の形は、その星座中の星の名を呼ぶときに用いられる。ベテルギユース星は、オリオン星座中最も強く光る星であるが、これを Alpha Orionis のように呼ぶ。

9. 代名詞の主格でその格変化を示す場合:

**I** [aɪ] *pron.* (主格 **I**, 所有格 **my**, **mine**, 目的格 **me**; 《複数》主格 **we**, 所有格 **our**, **ours**, 目的格 **us**), *n.* (*pl.* **I's**, **Is**)

### B.

つづり字上の誤りを避けるために次のような語については、それぞれ複数形を示した。

1. -o, -ful, -ey, -us で終わる名詞:

**po-ta-to** […] *n.* (*pl.* **-atoes**)

**cup-ful** […] *n.* (*pl.* **-fuls**)

**mon-key** […] *n.* (*pl.* **-keys**), *v.* (**-keyed**, **-key-ing**)

**pro-spec-tus** […] *n.* (*pl.* **-tus-es**)

2. 複合語で語尾に置かれている要素が単独の語として用いられる場合には違った複数形をとる名詞:

**mon-goose** […] *n.* (*pl.* **-goos-es**)

《注》goose という単一語は複数形は geese となり、誤りやすいため。

3. 複数形の発音を誤りやすい名詞:

**path** [pæθ, pa:θ|pa:θ] *n.* (*pl.* **paths** [pæðz, pa:ðz, pæθs, pa:θs|pa:ðz])

**pe-so** [péisoʊ|-səʊ; *Sþ.* péso:] *n.* (*pl.* **-sos** [-soʊz] **-səʊz**; *Sþ.* -sois])

4. 2語以上から成る連語見出し語で、最終要素以外の単語が変化するもの:

**ádjutant géneral** (*pl.* **adjutants general**)

### C.

2つ以上の変化形を持つ語については、適宜、指示を与えて、すべての変化形を示した。

**la-bel** […] *n., v.* (**-beled**, **-bel-ing** or 《特に英》 **-belled**, **-bel-ling**)

**break** […] *v.* (**broke** or 《古》 **brake**; **bro-ken** or 《古》 **broke**; **break-ing**), *n.*

**bass** […] *n.* (*pl.* 《特に集合的に》 **bass**, 《特に2種類

以上をさすとき) **bass-es**)

#### D. 動詞の変化形

- 2つの形を示した場合は、前者が過去・過去分詞で後者が現在分詞であることを示す。

**love** [...] *n. v. (loved, lov-ing)*  
**put** [...] *v. (put, put-ting)*

- 3つの形を示した場合は、順に過去形、過去分詞、現在分詞であることを示す。

**run** [...] *v. (ran, run, run-ning), n., adj.*

### VI. 語義 (DEFINITIONS)

#### A.

語義・解説は当用漢字・新かなづかいを用いることを原則としたが、専門語などで当用漢字以外の漢字を用いたときは極力ふりがなを付けた。

- 品詞ごとに **1, 2, 3** …の番号を付けて語義を区分した。品詞の順、およびそれぞれの品詞中での語義配列の順は、原則として使用頻度の順とし、特殊語義、希用語義、古用、廃用となった語義などは原則として品詞ごとに最後に掲げた。しかし、関連する語義を一括して説明するほうが望ましい場合には、この順序を変更したものもある。

- 必要に応じて一つの語義番号内を(1)(2)(3)…と細別したものもある。

- 語義によって見出し語の形が異なる場合は、次のように指示した。

**pa-cif-ic** [...] *adj. 1* 和解的な (conciliatory) … **5**  
 (P-) 太平洋の: … **6** (P-) 太平洋沿岸の: … — *n.*  
 (P-) **1** = Pacific Ocean. **2** 蒸気機関車的一种…

そのほか、語義番号の直後に次のような指示をした。

(*pl.*) 《theを冠して》、《the-s) …

- 複数形でありながら単数として扱われる場合、語義に先立って次のように指示した。

**ten-pin** [...] *n. 1* … **2** (*pl.*) 《単数扱い》十柱戯: …

(注)上の2の場合、形は *tenpins* と複数形をとるが、用法では単数の動詞で受けることを表わす。

複数形の見出し語が単数の動詞をとることを表わす場合も同様である。

- 訳語のニュアンスを補足する同意語句は、訳語のあとに( ) に入れて示した。

**a-bol-ish** [...] *vt. 1* (法律・制度・習慣などを) 廃する、廃止する (do away with); 終わらせる (put or make an end to); …

- 構文上・用法上の指示は訳語に先立って( ) の中に、見出し語に伴って用いられる前置詞・副詞などの指示は訳語・同意語句の次に同じく( ) に入れて斜体で示した。

**be-gone** [...] *v.i.* 《通例命令文で》立ち去る (go away, depart) …

**as-sess** [...] *vt. 1* … **3** (税金・料金をなどを) 課する、賦課する (impose) 《通例 upon, on を伴う》: …

- 専門語などで、一般利用者になじみの少ない訳語については、(:) に続けてさらに詳しく解説した。
- 関連して知っておきたい参考事項・背景知識などは◆に続けて解説した。

#### B. 固有名詞 (Proper Names)

- 人名の扱い方

原則として原音に合わせてカタカナで表記し、次いで生没年、代表的業績、役職期間などを示した。

**An-drič** [ã:ndritʃ] *n. Ivo* [i:vɔ:]、アンドリッチ (1892- ) : ユーゴスラビアの詩人・小説家・短編作家; Nobel 文学賞受賞 (1961).

- 地名の扱い方

原則として原音に合わせてカタカナで表記した。

- (1) 現地名以外に、日本で慣用的に使われている呼称がある場合は併記した。

**Dan-ube** [...] *n.* ドナウ川, ダニューブ川: …

- (2) 説明文中の固有名詞は、国名はカタカナで、その他は原則として英語で示した。ただし日本で慣用的に使われている呼称と英語の呼称とがかなり異なるものについては両者を併記した。

ウズベク共和国 (Uzbekistan), Munich (ミュンヘン) など。

#### C. 文学作品・聖典名などの表記

作品名・著作名は「」内に示し、コロロン(:)を置いて簡単な説明を加えた。

**Alice's Adventures in Wonderland** 「不思議の国のアリス」; Lewis Carroll 作の童話 (1865). (また **Alice in Wonderland**)

#### D. 類義語 (Synonyms)

- 見出し語の語義・解説の末尾に —**Syn.** の略記号に続けて語義番号に対応した類義語を示した。

- また、類義語を示したあとに必要に応じて類義語の解説欄を設けた。この欄では類義語相互のニュアンスの相違を解説し、その相違の理解に役立つ用例をそれぞれに示した。

- この欄で取り上げた語については、それぞれの見出しから参照できるように指示を与えた。

**cen-ter** [...] *n. 1* 中心. **2** …  
 —**Syn.** (*n.*) **1** → *middle*.

#### E. 反義語 (Antonyms)

- 見出し語の語義・解説の末尾に —**Ant.** の略記号に続けて語義番号に対応した反義語を示した。

- 各語義、または見出し語の意味と対照的な意味を持つ語句は語義のあとに(⇔)の記号を用いて示した。

**circumstantial evidence** 情況証拠, 間接証拠 (⇔ *direct evidence*): …

**direct evidence** 《法律》直接証拠 (⇔ *circumstantial evidence*): …

- 合わせて参照しておくことが望ましい関連語句は、cf. に続けてボールド体で示した。

**ni-dic-o-lous** [...] *adj.* 《鳥類》留巢性の: … cf. **nidifugous**.

**ni-dif-u-gous** [...] *adj.* 《鳥類》離巢性の: … cf. **nidicolous**.

#### F. 特殊語の表示 (Restrictive Labels)

- 見出し語または一部の語義が、ある特定の地域・時間・表現様式・専門領域などに限って用いられるときは、次のように( ) または [ ] の中にそれぞれの指示を与えた。

- (1) 地域に関するもの: 《米》, 《英》, 《オーストラリア》, 《カナダ》, …

- (2) 時間に関するもの: 《古》, 《廃》, 《廃語化》, 《もと》, 《非現用》, …

- (3) 語の位相に関するもの: 《俗》, 《卑》, 《話》, 《文語》, 《詩語》, 《小児語》, …

- (4) 専門領域に関するもの: 《物理》, 《化学》, 《紋章》, 《ギリシア神話》, …

場合によっては、これらの指示を組み合わせることもある。《鉄道》《俗》

(注)これらの指示のうち、とくに(1)については、その

区別は絶対的なものとはいえない。したがって《英》《米》と指示があっても、それぞれ“chiefly British”, “chiefly American”と解すべきものであろう。

2. この表示が一つの品詞のすべての語義に適用される場合は品詞記号の直後に示した。また2つ以上の品詞があって、そのすべてに適用される場合は、最初の品詞記号に先立って示した、

**fi-ne**<sup>3</sup> [...] *n.* 《音楽》 **1** (da capo, dal segno のくり返し部分) 終結, 終り。 **2** (多楽章構成の曲の) 終止, 終り (end)。

**la-bi-o-ve-lar** [...] 《音声》 — *adj.* ([w]のように) 両くちびると軟口蓋を同時に働かして発音する唇軟口蓋音の。 — *n.* 唇軟口蓋音。

3. この表示が、ある語義だけに適用するときは、該当語義番号のあとに語義に先立って示した。

**a-vun-cu-lar** [...] *adj.* **1** おじ(uncle)の; おじらしい: …。 **2** 《廃》 質屋 (pawnbroker) の。

4. 一つの語義中で、表示がその細区分のいずれにも適用されるときは、細区分の番号に先立って示した。

**hi-lum** [...] *n.* **1** 《植物》 胎座。 (1) 種子の胚種が胎座に付着していた部分の痕跡。 (2) 澱粉粒の貯蔵される白色体の核。 **2** 《解剖》 門: …。

## G. 図解 (Illustrations)

理解を助けるために、図解・地図・表などを示した。必要に応じて他の見出し語から、これらを参照できるように指示を与えた。

## VII. 用例 (EXAMPLE PHRASES OR SENTENCES)

### A.

語義・補足的説明・類義語などでは十分に把握しがたい見出し語のニュアンスならびに用法の理解に役だてるために、最新の各種の資料から直接に収集した用例を豊富に掲げた。

- 語義の終りを示すコロンの (:) に続けて収録した。コロンのあとに説明があるときは、その説明の終りを示すピリオドに続けて収録した。
- 用例はすべて斜体であげた。
- 個々の用例の初めには、すべてダッシュ (—) を付けた。
- 同意の英文が2つ以上並び、訳文が共通であるとき、または詩などで原典の改行を示すときは、斜線 (/) を用いた。
- 用例の訳は、つとめて現代口語を用い、主語は誤解のおそれのないかぎり省略した。
- 用例の中には、広く次のようなものをも含めた。
  - その見出し語を含む複合語
  - 完全に成句化していない連語
- 用例は原則として連語・句・節・文の順に配列した。なお、ことわざや出典をしるした用例は、通例最後に収録した。
- Shakespeare, 聖書からの引用には、原則として出典を明記した。(「略語表」参照)  
〈Shak. Ham. I. ii. 135-6〉  
〈《聖書》 Prov. 15: 1〉  
〔注〕聖書からの引用ではなく、単に由来を示すにすぎない場合は、cf. として区別した。
  - Shakespeare の作品の行数は Globe Edition によった。
  - 用例中の聖書の英語訳は原則として Revised Standard Version により、邦訳は日本聖書協会発行の口語訳によった。King James Version を使用した場合は、邦訳は文語訳を用いた。
  - Shakespeare, 聖書以外の出典は、次のように〈 〉中に示した。

**err** [...] *v.i.* **1** …。 **2** (道徳的に) あやまちを犯す, …: — *To err is human, to forgive divine.* あやまちは人の常, これを許すは神 〈Pope〉。

## B. かつこの使い方

用例中のかつこは、訳語・用例・成句についても同様であるが、次のように用いた。

- 言いかえの場合の (or ), および省略の場合の [ ] は、成句の項参照。
- ( ) は、この中の語句が、かつこの直前の語句と交換しうることを示す。

**an-dan-te** [...] … — *adj., adv.* 適度にゆるやかな (に)。

〔注〕 *adj.* では「適度にゆるやかな」となり *adv.* では「適度にゆるやかに」となることを表わす。

**at-tain** [...] *v.t.* **1** …: — *attain one's goal (desire)* 目標(望み)を達成する。

## C. 語法 (Usage Notes)

- 見出し語の語義・解説の末尾に — **Usage.** に続けて文法上・語法上の注意すべき事柄を示した。
- また文法・慣用その他の点で必要と思われる注意事項を、▶ に続けて、見出し語の解説中の随所に入れた。

## VIII. 成句 (IDIOMS)

- 成句は、品詞ごとにまとめて語義・解説の最後に、斜体のボード体ですべて改行で示した。成句中に2つ以上の主要語 (key word) を含み、どの主要語でも引かれる可能性のあるものは原則としていずれか一方の見出し項目で解説し、他方から参照させた。

**pat**<sup>1</sup> の項で、

**pat on the back** 《話》 激励する (encourage) …。

**back**<sup>1</sup> の項で、

**pat on the back** → **pat**<sup>1</sup> (成句)。

- 成句の配列は、原則として成句を構成する各語のアルファベット順によった。ただし句頭の冠詞、細字の斜体の部分は、文例によって変化しうるものであるもので、配列上考慮しなかった。
- 動詞の成句は、自動詞・他動詞の区別はせず、まとめて示した。
- 1つの成句が2つ以上の意味を持っている場合には、(1)(2)(3) …の番号によって区分した。

**break in** (1) 押し入る, 侵入する…。 (2) …を訓練する, を仕込む。 (3) (靴など) はきならす…。

- 語義の場合と同じく、成句にも《話》《俗》などの別を示した。

**hit the sack** 《俗》 床につく (go to bed) …。

**sack out** 《俗》 床につく (go to bed) …。

- 直前の語句と言いかえても意味・用法の変わらない語句は (or) で、省略できる語句は [ ] で包んだ。

**a bowing (or nodding) acquaintance** (1) 会釈をかわす程度の間柄 (知人)。 (2) わずかな知識。

**make [both] ends meet** 生活の収支を合わせる, …。

- 成句中、*one, one's* は主として「主語自身, 自分」を、*a person, a person's* は「主語以外の人, 相手」を表わす。

**play one's cards** 計画を実行する。

**hang up one's ax** 無用の計画を中止する。

**sell a person a bargain** (1) からかう, なぶる。 (2) 予想外の返事をして人をまごつかせる。

- 成句中、細字斜体の *do* は、任意の動詞に置きかえられることを示す。

- 同意の成句は (/) を引いて併記した。

**for mercy/for mercy's sake** どうぞ, 後生だから。

ただし配列上かなり離れるものについては、次のように示した。

**come around (or round)** (1) …。

**come round** = come around。



## IX. 語源 (ETYMOLOGIES)

語源は語義・解説のあとに、[ ] を用いて示した。

### A. 略語 (Abbreviations)

「略語表」を参照のこと。

### B. 記号 (Symbols)

<: “from” の意味で、ある言語 (言語群) から他の言語への移行を示す。これは見出し語が何に由来し、どのような語形をとって英語に取り入れられたか、その過程を示すものである。

**di-a-dem** ... [ME *diademe* < L *diadēma* < Gk *diádēma* ...]

この記号は、同一言語で歴史的段階が異なるだけの単語の間には用いていない。たとえば、ME (Middle English) と OE (Old English) の間、AF (Anglo-French) と OF (Old French) の間、NL (New Latin) と LL (Late Latin) と L (Latin) の間などでは省略した。

**mad-der**<sup>1</sup> ... [ME *mad(d)er*, OE *mæd(e)re*; c. Icel *madhra* ...]

**sin-o-pis** ... [< NL, L]

<<: 中間段階の語形は省略して、一つの言語から他の言語への移行を示す。これは “goes back to” と読んでよい記号である。

**tick**<sup>3</sup> ... [ME *tikke*, *teke*, *tyke* (c. D *tijk*, G *Zeiche*) << L *tēca*, *thēca* ...]

>: この記号に続く語が、この記号に先立つ語に由来するものであることを示す。これは見出し語と近縁関係にある現代の外国語の形を引合に出すときに用いる。

**yet** ... [ME *yet(e)* < OE *giet(a)*; c. MHG *ieze yet*, now > G *jetzt* now]

=: この記号の前に位置する語について、それをいくつかの構成要素に分解するときに用いる。

**fer-re-ous** ... [< L *ferreus* = *ferr(um)* iron + *-eus* -EUS]

+ : 見出し語を形成する構成要素を結ぶのに用いる。

**bo-ron** ... [BOR(AX) + (CARB)ON]

deriv. of: この語に先立つ語があとに続く語から派生したものであることを示す。

**bleed** ... [ME *blede(n)*, OE *blēdan*, deriv. of *blōd* BLOOD]

?: 語源が不確実であるか不明のときに用いる。場合によって “perhaps” または “unknown” の意に解すべきものである。

**rag-gle** ... [?]

**bird** ... [ME *byrd*, *bryd*, OE *brid(d)* young bird, chick < ?]

\*: その語形が推定に基づく (hypothetical) ものに付けた。

### C. かっこ (Parentheses)

1. 大かっこ ( ) は次の場合に用いる。

(1) 分解された構成要素をさらに分解する場合:

**or-bic-u-lar** ... [ME < LL *orbiculār(is)* circular = L *orbicul(us)* small disk (*orbil(s)* ORB + *-culus* -CULE) + *-aris* -AR<sup>1</sup>]

(2) ある語形に文法上またはその他の注釈を加える場合:

**in-her-ent** ... [< L *inhaerent-* (s. of *inhaerēns*) ...]

2. 小かっこ ( ) は次の場合に用いる。

(1) 分解を必要としない、または見出し語とは関係のない語源の部分と区切る場合:

**in-oc-u-late** ... [ME < L *inoculāt(us)* ...]

(2) つづりなどの省略を示す場合:

**bathe** ... [ME *bath(i)e(n)*, OE *bathian* = *bæth* BATH<sup>1</sup> + *-ian* inf. suffix]

### D. 言語名の表示 (Language Labels)

斜体で示した語源の前に略記号を用いて、それぞれの言語名を示した。

1. 一つの言語名は初出の場合にのみ示し、同一言語に属する単語を続けて示す場合には省略した。

**bomb** ... [earlier *bom(b)ę* < Sp *bomba* (*de fuega*) ball (of fire), akin to *bombo* drum ...]

(注) *bombo* もスペイン語であることを示す。

2. 語源と見出し語との間に語形または意味上とりたてていろいろの相違がないときは、言語名のみを示した。

**in-land** ... [ME, OE; → IN-<sup>1</sup>, LAND]

**base**<sup>1</sup> ... [ME < MF < L *basis* ...]

**dart** ... [ME < MF < Gmc]

**win-ter-time** ... [ME; r. ME, OE *wintertid* ...]

3. ある言語において、前出の語と形は同じで、意味だけが異なるときは、言語名のあとにコロンを置き、その解釈を示した。

**in-cen-tive** ... [ME < LL *incentiv(us)* provocative, L: setting the tune = *incent(us)* ...]

### E. 字体 (Typeface)

語源欄には、次の3種類の字体を用いた。

1. 立体: 定義や文法的説明などに用いた。

2. 斜体: 見出し語の語源となる単語またはその一部で、この辞典に見出し語として出ていないものを示すのに用いた。また外国語や ME, OE, “obs.” “earlier” “dial.” などの指示のある語および固有名詞などで見出し語として出ていないものを示すのに用いた。

3. スモールキャピタル体: 見出し語としてこの辞典に出ていることを示すのに用いた。

### F. その他

1. 単なる構成要素だけを示したものもある。

**de-vel-oper** ... [DEVELOP + -ER<sup>1</sup>]

**sing-er**<sup>1</sup> ... [ME; → SING, -ER<sup>1</sup>]

**bat-fowl** ... [late ME *batfowlyn*. → BAT<sup>2</sup>, FOWL (v.)]

2. 頭字語 (Acronyms) は、見出し語を構成する文字を除くすべてをカッコで囲み、イタリック体で示した。

**NATO** ... [N(orth) A(tlantic) T(reaty) O(rganization)]

**scu-ba** ... [s(elf)-c(ontained) u(nderwater) b(reathing) a(pparatus)]

3. 混成語 (Blends) は、スモールキャピタル体で示した。

**flur-ry** ... [FLUTTER と HURRY との混成]

**smog** ... [SM(OKE) + F(OG)<sup>1</sup>]

4. ふつうの語源的解説のほかに、その言葉のいわれなどを解説したこともある。

**Briggsian lógarithm** ... [H. BRIGGS の名にちなむ; → -IAN]

**mag-no-lia** ... [< NL, フランスの植物学者 Pierre Magnol (1638-1715) の名にちなむ; → -IA]

5. 斜体のボールド体で示した見出し語の語義と字義どおりの意味の間に相違があるものは、次のように示した。

**haute école** ... [lit: high school]

**maf-tir** ... [lit: dismitter]

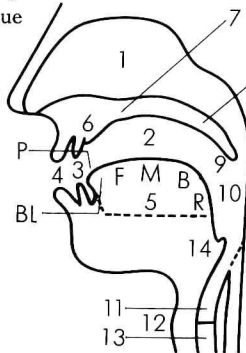
# 発音解説

## I. 発音器官 (ORGANS OF SPEECH)

息は肺から出て気管を通り声帯に達する。声帯は喉頭の中にあつて、水平に張られた1対の「ひだ」である。その2つのひだの間が声門である。息が咽頭を通ると、口と鼻の別れ道へ出る。口腔と鼻腔の境となっているのが口蓋で、後部は柔らかく、その先端は口蓋垂で、たれ下がっている。これが下がると息は鼻へ抜けて鼻音を生じる。口蓋垂が上がると、鼻への通路がふさがり、息は口へ出る。口蓋の前部の堅い部分(硬口蓋)が上歯に接するところ、すなわち上歯の後ろの出張った部分を歯茎という。英語の発音では(下歯茎でなく)上歯茎を用いる。

1. 鼻腔 nasal cavity
2. 口腔 oral cavity
3. 歯 { 上歯 upper teeth  
下歯 lower teeth
4. 唇 { 上唇 upper lip  
下唇 lower lip
5. 舌 { P 舌尖 point of tongue R 舌根 root of tongue  
F 前舌 front of tongue  
M 中舌 middle of tongue  
B 後舌 back of tongue

6. 歯茎 teeth ridge (gums)
7. 硬口蓋 hard palate
8. 軟口蓋 soft palate (velum)
9. 口蓋垂 uvula [jú:vjula]
10. 咽頭 pharynx [færipks]
11. 声帯 vocal cords  
声門 glottis
12. 喉頭 larynx [læripks]
13. 気管 windpipe
14. 喉頭蓋 epiglottis



### A. 無声音と有声音

すべての音声を声帯の振動の有無によって二大別する。声門が大きく開かれているときは、息(氣息, 呼吸)(breath)はその間を通って声帯を振動させない。このときは無声音(voiceless sound)となる。軽く閉じられた声帯を息が通ると振動する。声帯が振動する音が有声音(voiced sound)である。

### B. 母音と子音

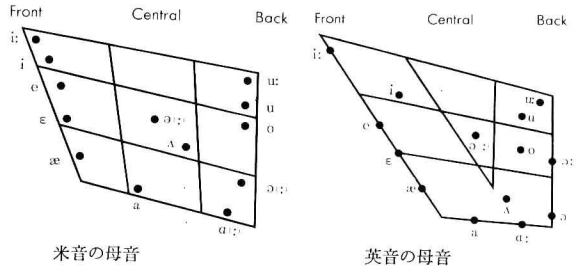
すべての音声を口腔内における舌・唇・歯などの発音器官の障害の有無によって二大別する。母音(vowel)は妨害を受けないで自由に発せられる音である。声帯の振動を伴い、口の中のどこでも摩擦を起こさず、閉鎖されることもなく、何の障害もない、純粋な楽音(musical sound)である。これに反して、子音(consonant)は息がどこかの部分で妨げられ、一時止められ、または摩擦を生じる。母音はみな有声音であるが、子音は無声音と有声音の2種がある。[w], [j]は母音の音色を持ち、調音点も[u], [i]に近いので、半母音(semivowel)といわれる。英語の子音の数は24、母音の数は学説によって一定しない。Jones式では単母音13([ə]を含めて)、二重母音9、計21であるが、*The Random House Dictionary of the English Language* (以下 RHD 方式と略す)では19である。

## II. 母音 (VOWELS)

英米の単一母音相互の位置関係を、下の2つの図に示す。いずれも、上から下へ、高・中・低、左から右へ、前・中央・後ろを表わす。

以下の説明で、前母音(front vowel)、中央母音(central)、後母音(back); 高母音(high)、中母音(mid)、低母音(low)とあるのは、発音中に、舌の最高点が口腔内で占める位置によって名づけたもので、これらの名称の「前・中央・後、高・中・低」は、それぞれ、下の図の「前・中央・後ろ、高・中・低」に相当する。

### A. 単母音 (Simple Vowels, Monophthongs)



[i:] 高・前母音 (high front vowel) equal, seat, bee などに用いられる母音。俗に“long e”という。平口で、口の開き方は母音中で最も狭く、舌は緊張する。mighty, candied などの語尾の弱音節で、今日、合衆国の大部分では、[i:] に似た母音を用いられるのが普通である。しかし、これは短母音であるので、[i:] で表記すると誤解を招くおそれがある。従って、この辞典では、このような弱音節の母音に、かつて一般的であった [i] を与えておく。英国発音では candied のような語が [i:] に類似の音で発音されることはない。candied も candid も同じ音である。なお、[i:] は、bee のような強勢のある音節で、しばしば、二重母音化する。この現象は、英米ともに、強勢のある開音節でよく認められる。

[ɪ] 高・前母音 (high front vowel) if, big, mirror などに用いられる母音。俗に“short i”という。舌はゆるむ。平口であるが [i:] よりは左右やや小さく、口の開きは少し大きくする。日本語の「イ」と「エ」の中間音。舌の位置は日本語の [ɪ] よりもやや低く、後退する。語頭の弱音節 (例: event) では [ɪ] から [i:] までの変異形がある。[ɪ] はまた furniture, citizen などの第2音節の弱勢の母音を示す。この場合は [ɪ] から [ə] までの母音を示すものと考えられる。ただし、これは米国発音の場合である。

[e] 中・前母音 (mid front vowel) ebb, set, merry などの母音。俗に“short e”という。日本語の「エ」とだいたい同じであるが、もう少し口を開き舌を少し低くする。[e]+r とか、bell, well の発音では、[e] は [ɛ] に近くなる。全般に米音では [e] となる傾向がある。

[ɛ] [e] と [æ] の中間音。[e] よりも口がやや開く。二重母音 [ɛr] の最初の音。air, dare, Mary などで r の前に用いる。英国発音では [ɛə] となる。語尾 (例: care, spare) では二重母音的であるが、語尾以外 (例: Mary, careful) では、ふつうは単母音。r+母音の前では [ɛ:] と表記してある。例: parent [pé:rənt|péə-]

[æ] 低・前母音 (low front vowel) act, nap, bat の母音。俗に “flat a” “short a” という。口の開きは [e] [ɛ] [æ] [a:] の順で大きくなる。[æ] の記号は a と e の合字 (ligature) を用いる。「エ」と「ア」の中間の音を激しく吐き出すように勢いよく発音する。英語独特の母音である。marry, dance, ham, hag などでは [ɛ] の母音で発音する人もある。

[a] [æ] と [ɑ:] の中間音。日本語の「ア」に近いが、「ア」よりも前寄り、口の開きが大きい。二重母音 [ai], [au] の最初の音。

[ɑ:] 低・後母音 (low back vowel) father, calm, alms などの比較的長い音。すべての母音のうちで、口が最も大きく開き、舌の位置も最も低い。一般に米国発音では park, arm, heart などでは [ɑ:] に r-coloring が伴うが、英国発音および米国東部および南部の発音では [ɹ] を発音しない。この辞書では [ɹ] のあとの母音の有無で park [pɑ:k|pɑ:k], faraway [fɑ:ˈrəweɪ] のように表記している。[ɑ:] の短い音 [ɑ] は not, rock, shop, college, body, dollar などに用いるが、英国発音では [ɑ] の代わりに [ɔ] を用いる。wasp, what も米国発音では [ɑ], 英国発音では [ɔ] となる。一般に米国発音で [æ] となる last, grass, basket, can't, chance, answer, half, laughter, after などにおいての英国発音では [ɑ:] を用いる。on, fog, want, wash, foreign, forest, sorry, quarrel などでは、英国発音は [ɔ], 米国発音では [ɑ] と [ɔ:] の2種の発音が行なわれる。

[ɔ:] 低・後母音 (low back vowel) ought, ball, raw などの比較的長い母音。丸口で、後舌が上がる。日本語の「オー」よりも唇を丸め、米音は口の開きを大きくする。

[ɔ] 低・後母音 日本語の「オ」よりも口を大きく開き、唇をやや丸め、舌を低く引いて発音する。二重母音 [ɔi] の最初の音。[ɔ] は英国発音で多く用いられ、米国発音では [ɑ] となる。aboard, coarse, course, source, boar, board など英音では [ɔ:] であるが、米音では [or] と [ɔ:] と2種の発音を持つ地方が多い。その地区では次の区別もする。horse [hɔ:rs], hoarse [hɔ:rs, hɔ:rs]; corn [kɔ:rn], corner [kɔ:rnər], core [kɔ:r, kɔ:r], corpse [kɔ:ps]; born [bɔ:rn], borne [bɔ:rn, bɔ:rn]。この辞典の米音表記では r + 母音の直前では長音記号 [ː] を付して、[ɔ:r-], [ɔ:ɹ-] とした。例: orient (v) [ɔ:ri:nt, ɔ:r-]; moreover [mɔ:ˈru:vər, mɔ:r-]; auditory [ɔ:di:tɔ:ri, -tɔ:ri]

[or], [ɔ:] は [or], [ɔ:] よりもやや開いた丸口の「オー」である。

[ou] [ɔ] より口の開きが少ない。二重母音 [ou] の最初の音。舌の高さは日本語の「オ」程度。唇を丸める。

[u:] 高・後母音 (high back vowel) ooze, fool, too の母音。後母音の中で最も後舌が高く上がり、舌は緊張している。唇を丸めて突き出して発音する。円唇音 (round)。

[u] 高・後母音 book, foot の母音。舌はゆるむ。[u] は語の中間だけに用いる (語頭に生じる外来語 umlaut [ʊmlaut] などは例外)。円唇音。r の前ではこの記号は [u] と [u:] の中間の音を表わす。例: pure [pjʊr|pjʊə]

[ʌ] 低・中央母音、または後母音 (p.7 の英音の図示は後母音のもの)。up, love の母音で、俗に “short u” という。口は丸くない。英音は日本語の「ア」にいくぶん近く、米音は [ə] に類似した音色をもつ。hurry, thorough, worry などにおいては英音 [ʌ] は米音ではおにも [ə:r] となる。例: [hʌ:ri|hʌ:ri], [θʌ:rou|θʌ:rs], [wʌ:ri|wʌ:ri]

[ɜ:] [ə:] 中舌面が上がるので、中央母音 (central vowel) という。舌は中位の高さである。口の形を「エ」にして「アー」と発音する。口を開きすぎないように注意する。er, ir, or, ur などのように r のつづりを伴う。term, service; bird, shirt; word, work; hurt, turn など。米音では [ə:r-] となる。これを “r-colored vowel” という。英国発音は r-less の [ə:] である。例: [tɜ:rm|tɜ:m] [bɜ:rd|bɜ:d] [wɜ:rd|wɜ:d] [hɜ:rt|hɜ:t]

[ɔ:] [ə] 中央母音 舌は [ə:] よりも少し下がる。舌と唇とを自然のままにし、口をわずかに開いて弱く「ア」を発音する。「あいまい母音」 (obscure vowel; schwa [wə:i]) という。つづりに r

がある弱音節にしばしば用いる。例: brother [brʌðər], standard [stændəd], doctor [dɒktər], labor [leɪbər], murmur [mɜ:rmər], picture [pɪktʃər]

英国発音では r が響かず (r-dropping), [ə] となる。例: [brʌðə], [stændəd] つづりに r が無い場合 (弱音節) a, e, i, o, u その他非常に多くの場合に出る母音 (自然音) である。この場合は英米ともに [ə] となる。例: alone [əˈləʊn], opera [ɒpə], April [eɪprəl], today [tədeɪ], album [ælbəm]

## B. 二重母音 (Diphthongs) と米音の [母音 + r]

[eɪ] aid, cape, rain, gray などの母音。俗に “long a” という。米国発音では単 (長) 母音化され、Jones 式記号で示すと [e:] に近い。完全な単母音ではないが、英音に比べて二重母音化が少ない way のような強音節では二重母音的になるが、vacation [veɪkə-ʃən] の第1音節のような弱音節では単母音に近い。

[aɪ] ice, bite, pirate, deny などの母音。俗に “long i” という。

[a] (または [a] と [ɑ] の中間) の音を強く発音し、それに [ɪ] を軽く添える。英語の二重母音はみな第一音が強く (成節部で、音節の中心となる)、第二音が弱い (非成節部である) ことが特色。

[aʊ] out, loud, prow などの母音。[a] (または [ɑ]) から [u] (または [u:]) に移動させる音。r の前では三重母音 (triphthong) になることもある。例: flower [flaʊr|fləʊə]

[ɔɪ] oil, point, joy などの母音。口を大きく開いた、やや長い [ɔ] から弱い [ɪ] に移る。例: boy [bɔɪ]

[oʊ] [u:] 俗に “long o” という。over, boat, no などの母音。弱音節 (例: obey の第1音節) では単母音的に、強音節 (例: toe) では二重母音になる。

[ɪr|ɪə] 母音の次のつづりに r があるときは米音表記は [ɪr] である。通例は二重母音で、第1の母音は [ɪ] から [ɪ:] まで幅がある。例: ear [ɪr|ɪə], mere, here。r + 母音の直前の場合の表記では experience [ɪkspɪ:riəns|pɪər-] となり、つづりに r が無い場合は、idea [aɪdeɪ|ə-dɪə], real [rɪə|ri:, ri:|rɪə] のようになる。

[er|eə] air, dare, Mary など、いつも r のつづりの前にある。語尾では [eər] のようになる。例: care [keɪr|keə], spare [speɪr|speə] ([er]=[eər])

[ɔr|ə] 現代英国 (南部) 発音では [ɔ:] となることが多く、この場合は二重母音ではない。米音 (つづりに r を持つ場合) では [ɔ:] となる (既述)。例: shore [ʃɔ:r|ʃə, ʃ:ɔ:], war, warm

[ʊr|uə] [ur] はつづりに r を持つ場合の米音表記では poor [pʊr], tour [tuər] となり、r のない場合には、たとえば cruel は Jones 式では [kruəl] と表記し、二重母音であるが、米音表記では [kru:ə] のように長母音 + ə である。比較: fluent [flʌ:nt|flʌ:(-)]

## III. 英語の子音 (ENGLISH CONSONANTS)

場所 方法	唇		齒	齒茎 硬口蓋	硬口蓋	軟口蓋	声門
	両唇	唇齒					
破裂音	p b		t d			k g	
鼻音				n			ŋ
側音				l			(l)
摩擦音	(w)	f v	θ ð	s z r	ʃ ʒ	(j)	h
破擦音					tʃ dʒ		
半母音	w			r		j	(w)

(注) 各欄上部は無聲音、( ) 内は2か所にわたる記号。半母音 [r] は米音

### A. 調音点(発音の場所)による子音の分類

1. 唇音 labial (両唇音 bilabial [baɪlɪbɪəl]  
唇歯音 labiodental)
2. 歯音 dental
3. 歯茎音 alveolar [ælvɪ:ələr|ælvɪələ, ælvɪəulə]
4. 硬口蓋音 palatal
5. 軟口蓋音 velar [vɛ:lər|-lə]
6. 声門音 glottal (喉頭音 laryngal [lərɪŋgəl])

## B. 発音の方法による子音の分類

1. 破裂音 plosive; explosive; occlusive  
(別名) 閉鎖音 stop; mute
  2. 鼻音 nasal
  3. 側音 lateral
  4. 摩擦音 fricative; spirant
  5. 破擦音 affricate [æfrɪkɪt]; affricative [æfrɪkətɪv]
  6. 半母音 semivowel
- [p], [b] 両唇破裂 (bilabial plosive) 子音。 [p] は pool, spoon, supper, stop などで用いる無声 (voiceless) 子音。 両唇を軽く閉じて、一時息 (氣息) を止め、急に開いて破裂音を出す。 back, cabin, cab の [b] は [p] と同じ調音の位置で同じように発音する有聲 (voiced) 子音である。
- [t], [d] 歯茎破裂 (alveolar plosive) 子音。 [t] は舌先を上歯茎に当てて息を止め、急に開いて息を出す。 例: team, steam, attend, bit. 日本語の「タ, テ, ト」の頭の子音は舌先が歯茎または、もっと下がって歯の裏にくる。 歯の裏で発音する人は、英語の発音の際に注意する必要がある。 [d] は [t] の有声音である。 例: do, middle, bed. 米音の [t] (弱音節の前) は弾音に似た有声音になる傾向がある。 舌先を歯茎にはじくようにして発音するのがこれである。 米音では water, thirty, forty, Saturday, letter, Betty などの [t] は [t] と [d] の中間音で、[d] とも [r] とも聞こえ、budder と butter, madder と matter とが区別しにくいほど似た発音になる傾向がある。
- [k], [g] 軟口蓋破裂 (velar plosive) 子音。 [k] は後舌を軟口蓋につけ、息を止め急に出す。「カ」行の頭の子音に似ているが、口の奥から強く発音する点が違う。 例: keep, cool, scream, token, make. [g] は [k] の有声音である。 例: give, beggar, drug. 俗に “hard g” という。
- [m] 有聲両唇鼻 (voiced bilabial nasal) 子音。 my, summer, him などに用いられる有聲音。 唇を閉じ、ふさいだ息を鼻へ送る。 声帯の振動を受けた音に鼻腔と口腔が共鳴室の作用をする。 [m], [n], [ŋ] の3つの鼻音は、口蓋垂 (のどひこ) が下がって息が鼻腔を通るのが特色。 他の子音では口蓋垂が上がって鼻への息の通路を止める。 [m] だけで1音節をつくり、[m] の前に [ɔ] がはいることがある。 この場合の子音を成節 (音節) 子音 (“syllabic m”) という。 例: prism [prɪzəm], chasm [kæzəm], nationalism [næʃənəl-ɪzəm|næʃnəl-]; rhythm [rɪðəm]
- [n] 有聲歯茎鼻 (voiced alveolar nasal) 子音。 now, sinner, on に用いられる有聲音。 舌先を上歯茎に当てて発音する。 [n] は [m], [l] と同じく成節子音をなす場合に特に英音に見られる。 この “syllabic n” の例としては basin [beɪsɪn|-sn], reason [rɪ:zən|-zn], Edison [edɪsən|-sn] などがある。 cf. open [ʊpən|ʊ-]
- [ŋ] 有聲軟口蓋鼻 (voiced velar nasal) 子音。 後舌を軟口蓋につけて口への息の通路をふさぎ、鼻腔に声を響かせる。 sing, singer, tongue, Washington で用いられる子音である。 語頭には用いない。 [ŋ] は [k], [g] と同じ調音点 (homorganic) の子音であるが、鼻音である点で異なる。 hang, king, ringing, Springfield などでは [ŋ] だけで [ŋ] を伴わない。 single, finger, hungry, younger, youngest などでは [ŋ] となる。 bank, ink, sink, trunk, anchor などの語では [k] の前の n は [ŋ] と発音される。 strength, lengthen [lɛŋkθən, lɛŋθ-] では [ŋ] と [θ] の間に [k] がはいることもある。
- [l] 有聲歯茎側 (voiced alveolar lateral) 子音 low, mellow, all

などの子音。 舌先を上歯茎につけ、舌の両側から息を出す有聲音である。 代表的な流音 (liquid) [l] には次の2種類がある。 すなわち “clear (or light) l” は母音の前、または2母音間で用い、前舌部が上がる。 例: list, leaf, let, lake. また “dark l” は子音の前や語尾に用い、後舌が軟口蓋の方に上がるか、舌根が咽頭壁に向かって引かれるかする。 例: all, field; people, fill, silk. 成節子音 (“syllabic l”) となることもある。 例: battle [bætɫ], needle [ni:dl], table [tɛɪbl]

- [f], [v] 唇歯摩擦 (labiodental fricative) 子音。 上歯で下唇をかむように当て、その間から息を出す。 例: fit, differ, puff. [v] はその有声音である。 例: voice, river, live.
- [θ], [ð] 歯摩擦 (dental fricative) 子音。 舌先を上歯の先の内側に付けるか、上歯の下端に当て、その間から強い摩擦音を出す。 [θ] は thin, ether, path などに用いられる無声音。 [ð] は that, either, smooth などに用いられる有聲音である。
- [s], [z] 歯茎摩擦 (alveolar fricative) 子音。 [s] は舌先を上歯茎 (または上歯の裏) に近づけ、その間から強い息の音を出す。 例: see, passing, miss. シューシューという (hissing) 音で、歯擦音 (sibilant) の一つ。 [z] はその有声音である。 例: zeal, lazy
- [ʃ], [ʒ] 歯茎硬口蓋摩擦 (alveo-palatal fricative) 子音。 [ʃ] は唇を突き出し、前舌を上歯茎の奥か、硬口蓋の前部に近づけ、その間から強く息を出す。 例: shoe, fashion, push. [ʒ] は [ʃ] の有声音である。 例: pleasure, vision, azure, mirage. [ʃ] も [ʒ] もともに歯擦音である。
- [tʃ], [dʒ] 歯茎硬口蓋破擦 (alveo-palatal affricate) 子音。 複合子音。 すなわち破裂音 [t], [d] + 摩擦音 [ʃ], [ʒ] = 破擦音である。 [tʃ] では舌先を上歯茎につけ、舌端を硬口蓋に近づけ、急に舌先を離し、破裂音 [t] を出すと同時に摩擦音 [ʃ] に移る。 例: chief, butcher, beach. [dʒ] は [tʃ] の有声音である。 例: just, energy, wage. この音は俗に “soft g” という。 原語が摩擦音 [ʒ] であるものが、英語にはいって破擦音 [dʒ] に変化することがある。 例: garage, prestige
- [r] 米国発音の [r] はいくつかの異音を持っている。 一般には摩擦音のない母音に似た、舌をそりかえず「反転音」 (retroflex) の [ɹ] (例: red, rich) である。 母音のあとの (postvocalic) “r” は、母音を発音しながら舌を反転させて [ɹ] の音を出し、母音に r の色 (r-coloring) を添える。 例: fair, bird. 英国発音の [ɹ] は舌先を歯茎後部に近づけて発音される。 従来の子音分類の不備から、しばしば摩擦音の一種とされるが、実際は摩擦のないのが普通。
- 米国でも英国 (南部) と同じように「摩擦音の r」をも使用する。 舌先を少し内側に巻くようにし、上の奥歯茎に近づけ、その狭い息の通路から声を出す。 例: dress, try
- 英国 (南部) 標準発音では、語尾の (final) r と、子音の前の (preconsonantal) r とを発音しない。 例: car [kɑ:], card [kɑ:d]. 英国発音では far away, there is などの語間や, very, worry などの語の母音間で弾音 (flapped) の r がしばしば聞かれる。 舌先を振動させる巻き舌 (流動音) の (rolled) r はスコットランドや英国北部で用いられる。
- [h] 無聲声門摩擦 (voiceless glottal fricative) 子音。 舌も唇も自然のままにして自由に放出された息の音。 日本語の「ハ, ヘ, ホ」の頭の子音にあたり、気音 (帯気音) (aspirate) である。 語頭 (例: hit, hear) と語の中間 (母音の前) (例: behave) に用いる。 [p], [t], [k], [tʃ] を強く発音すると (強音節のとき)、気音 [h] が直後にはいる。 例: pipe, team, kill huge [hju:dʒ] の語頭の子音は [h] の複合子音、または硬口蓋摩擦音 [j] の無声音子音を表わす。 ウェールズ語 (Welsh) に多い -ll- のつづりは [h] で示される。 [h] は移動音 (わたり音, glide sound) (他の例は [w], [j]) で、発音しているとき舌や唇は次にくる母音の調音の位置をとっている。 次の母音によって大いに影響されて脱落することもある。 英語で最も不安定な音である。 silent (mute) h の例: hour, honest, exhaust, Graham weak h の例: vehicle, vehement, exhale, rehabilitate

[w] 両唇軟口蓋半母音 (bilabial-velar semivowel) 唇を丸く突き出し、後舌を軟口蓋に近く上げて、急に両唇を左右に引いて、短く声を出す。母音に近い性質を持つので半母音という。[w] の子音化と考えてもよい。[w] は [u] よりも強く丸口にし、後舌がもっと高く軟口蓋に近づき、急速に後続の母音の位置に向かって動く。この点が母音[u]と異なる。例：west, water, away。[w] は語尾に用いない。

[j] 硬口蓋半母音 (palatal semivowel) 前舌を硬口蓋に近づけたのち、後続の母音の位置に向かって急速に移動させる。ヤ行の「ヤ、ユ、ヨ」の頭の子音にあたるが、もっと強い音である。[j] は [i] の子音化されたものである。[j] では舌の位置が、母音 [i] のときよりも高い。すべての音のうちで最高である。例：yes, beyond。[j] は語尾には用いない。

## IV. 米国発音と英国発音

### A. 米国発音の一般的特色

1. 統一性 米国は広大な国土の割合には地域方言の差異が少なく、大きな変化がない。比較的統一性がある。
2. 鼻音化 すべての音を鼻にかけて発音する全国的な傾向。
3. 第2強勢の使用がやや多い。
4. つづり字のすべての r を発音する。
5. つづり字的発音 つづり字どおりに忠実に発音する傾向。  
例：ate [eit̚et̚], clerk [kɫɔ:rk̚klɫɔ:k̚]
6. 平板な調子 音調 (intonation) は高低の変化が少ない。

### B. 米国発音の3大地域区分

1. 西部(中西部)型 (Middle) Western speech type (別名) 一般型 General American [speech]
2. 南部型 Southern speech type
3. 東部型 Eastern speech type
  1. 西部型 中部・北部の大平原地方から太平洋沿岸に達する最も広い地域の発音。一般型といわれるのも当然な、米語の代表的発音型である。全人口の70%もがこの型を話し、他の型(特に東部型)もこの型に統合されて、ますます増加する傾向にある。すべての r を発音し、pass, castle, after, rather などで [ɹ] でなく [æ] を用い、knock, stop, job, honest, John などでは [ɔ] でなく、[ɑ] を用いて発音する。本辞典でも米国発音はこの型を基準とする。
  2. 南部型 東南部一帯で話される発音。Maryland・Virginia 州以南から大西洋・メキシコ湾沿岸諸州に見られる発音型である。全人口の約20%がこの型を話す。「南部型引き伸し音」と呼ばれる間延びした引き伸し音 (Southern drawl) を特色とする。I, my, time などで [ai] が [a:] に近くなる。air, care, cow が [æə], [kæə], [kjæu] となり、yes, bit, good などでは単母音が二重母音化して [jei(j)ə], [bi(j)ət̚], [gu(w)əd̚] のようになる。
  3. 東部型 別名を New England 型という。Hudson 川から東の地域で話され、全人口の約10%がこの型を話す。英国南部の標準発音に似ている。子音の前の r (例：part), 語尾の r (例：car) を発音しない (この点では南部型と共通)。

### C. 英国標準発音 (容認発音 Received Pronunciation)

英国では米国と比較して各地域間、また上下の階級の間の発音の差異が大である。英国発音の重要な一つの型は南部発音で、首都ロンドンを中心とする地域の中流以上の階級の教育ある人々の発音である。Daniel Jones の *English Pronouncing Dictionary* はこの型を記録したもので、この辞典の英国発音はこれによっている。北部発音はつづり中の r を発音し、[a:] の代りに [æ] を用い、二重母音は長い単母音となる点で米語 (一般型) 発音と共通点を持っている。

## D. 米英発音の差異

### 1. 母音

(米)	(英)	例
[æ] ([æ:], [a])	[ɑ:]	ask, cast, plant, bath, half
[ɑ]	[ɔ]	not, ox, got, top, shop, pond
[ɔ:]	[ɔ]	long, song, coffee, soft, wrong
[ɑ] ([ɔ:])	[ɔ]	on, wash, want, sorry, forest
[ɜ:r]	[ʌ]	hurry, current, courage, thorough
[u:]	[ju:]	new, tune, duty, suit, student
[ou]	[əu]	no, home, low, boat, stone
[i]	[ai]	realization, fragile, fertile, direct
[ai]	[i]	anti-, vitamin, dynast, simultaneous
[i:]	[iə]	era, material, series, zero
[ɛ:]	[ɛə]	vary, parent, wary, Mary
[u:] [u]	[uə]	Europe, during, tourist, fury
[ai]	[aiə]	siren, tyrant, iris, pirate

### 2. 子音

[hw] (米)	[w] (英)	what, which, where, white, whether
(米) 弾音の t		better, water, pretty, thirty, Betty
(米) r-coloring		[ɜ:r] earn; [ɑ:r] large; [ɔ:r] form

## V. 外国語の発音 (FOREIGN SOUNDS)

外国語音は近似の米音のみで示した場合と、米音化した音を表記した場合がある。この米音に対して英音が相違するものは両音を米英の順序で併記した。RHD 方式では、フランス語の a, ɔ を示すのに A, N などの大文字を、また英語の r と異なった種々の r を R としている。そのほかにも œ, ʁ, ʁ を用いている。この辞典では全部を親しみやすい IPA 方式に直して用いることにした。

### é-toile [eitwål]

### rap-**port** [ræpɔ:r, pɔ:r[ræpɔ:r]; Fr. rapɔ:r]

#### 1. 母音

[A]→[a] フランス語の ami に用いられる。[æ] と [ɑ:] の中間の前母音である。

[œ]→[ɛ] 丸口前母音 (rounded front vowel) ドイツ語の schön, フランス語の feu, またはドイツ語の öffnen, フランス語の neuvième の第1音節の母音である。英語の前母音はみな平口で発音するが、この母音は丸口にして [ɛ] と発音する。英米語にない。

[ʏ]→[y], [jʏ] 丸口前母音

(1) ドイツ語の fühle とフランス語の lumière との第1音節に用いられる母音である。唇を丸くつぼめて [i:] を発音する。

(2) ドイツ語の Fülle の第1音節に用いられる母音である。唇を丸めて [i] を発音する。

#### 2. 子音

[N]→[ŋ] フランス語 bon などに用いられる子音で、前の母音が鼻音化 (nasalized) されていることを示す。[n] とは別の音である。鼻音化の記号 (̃) を母音字の上につける。

[R]→[r] 外国語の [r] は “non-English r” の種々な r を含めて示す。特定の (調音の) r をさすものではない。スペイン語の弾音 (flap) の r, イタリア語・スコットランド英語・ドイツ語などの流動音 (trill) の r, フランス語 (Parisian French) の口蓋垂摩擦 (uvular fricative) の r などを含む。

[χ]→[x] 正確には無声軟口蓋摩擦 (voiceless velar fricative) 子音の [x] と無声硬口蓋摩擦 (voiceless palatal fricative) の子音 [ç] を表わす。アラビア語・ドイツ語・スコットランド英語・ロシア語などで用いられる。狭義の [x] は, ach [ɑ:x] (Ger.), loch [lɑ:x|lɔ:x] (Scot.) の語尾子音では軟口蓋摩擦音である。後舌面と軟口蓋の狭い通路から息を強く出す。調音点がもっと前になって、前舌面と硬口蓋との間でできる無声摩擦音が [ç] である。例：ich [iç] (Ger.)。なお日本語の「ヒ」は [ç] と表示される。

# 音 声 記 号 表

母 音				子 音			
音 声 記 号		語	例	音 声 記 号		語	例
米 音	英 音						
a	ə	ox,	box	b	back,	cabin	
a:	a:	alms,	palm	d	do,	rudder	
ar	a:	art,	par	dʒ	just,	badger	
a:r	a:r	starry,	faraway	ð	that,	either	
æ	æ	act,	bat	f	fit,	differ	
æ	a:	aunt,	cast	g	give,	trigger	
ai	ai	ice,	bite	h	hit,	behave	
air	áiə(r)	ire,	fiery	hw, w	white,	nowhere	
au	au	out,	loud	j	yes,	token	
aur	áua(r)	our,	sourish	k	kept,	token	
e	e	ebb,	set	l	low,	mellow	
ei	ei	aid,	cape	m	my,	simmer	
er	ɛə	air,	dare	n	now,	sinner	
ɛ:r	ɛər	airy,	daring	ŋ	sing,	Washington	
ə	ə	alone,	focus	p	pot,	supper	
ər	ə	father,	doctor	r	read,	hurry	
ɛ:r	ɛ:	urge,	burn	s	see,	passing	
ɛ:r	ʌr	current,	courage	ʃ	shoe,	fashion	
i	i	if,	body	t	ten,	butter	
i:	i:	equal,	seat	tʃ	chief,	butcher	
i:ə	iə	idea,	real	θ	thin,	ether	
ir	iə	car,	mere	v	voice,	river	
i:r	iər	period,	serial	w	west,	away	
ou	əu	over,	boat	z	zeal,	lazy	
ɔ:	ɔ	off,	dog	ʒ	vision,	mirage	
ɔ:	ɔ:	ought,	ball				
ɔ:r	ɔ:	orb,	form				
ɔ:r	ɔ:r	aural,	moral				
or	ɔ:	ore,	board				
o:r	ɔ:r	oral,	orient				
ɔi	ɔi	oil,	joint				
u	u	book,	put				
u:	u:	ooze,	fool				
ju:	ju:	use,	few				
ur	uə	moor,	tour				
u:r	uər	poorer,	tourist				
jur	juə	pure,	cure				
jur	juər	purify,	curious				
ʌ	ʌ	up,	love				

非 米 英 音			
音 声 記 号		語	例
a		ami (Fr.),	avant (Fr.)
x		ich (Ger.),	loch (Scot.)
ŋ		bon (Fr.),	blanc (Fr.)
ə:		feu (Fr.),	schön (Ger.)
r		rouge (Fr.),	rot (Ger.)
ju		tu (Fr.),	über (Ger.)

# 略 語 表

## I. Shakespeare の作品名

Shak. .... William Shakespeare

*Much Ado* ..... Much Ado about Nothing  
*All's W.* ..... All's Well that Ends Well  
*Ant.* ..... Antony and Cleopatra  
*A.Y.L.* ..... As You Like It  
*Caes.* ..... Julius Caesar  
*Compl.* ..... A Lover's Complaint  
*Cor.* ..... Coriolanus  
*Cym.* ..... Cymbeline  
*Err.* ..... The Comedy of Errors  
*Two Gent.* ..... The Two Gentlemen of Verona  
*1 H4* ..... The First Part of King Henry IV  
*2 H4* ..... The Second Part of King Henry IV  
*H5* ..... The Life of King Henry V  
*1 H6* ..... The First Part of King Henry VI  
*2 H6* ..... The Second Part of King Henry VI  
*3 H6* ..... The Third Part of King Henry VI  
*H8* ..... The Famous History of the Life of King Henry VIII  
*Ham.* ..... Hamlet, Prince of Denmark  
*K. John* ..... The Life and Death of King John  
*L.L.L.* ..... Love's Labour's Lost  
*Lear* ..... King Lear

*Lucr.* ..... The Rape of Lucrece  
*Mac.* ..... Macbeth  
*Meas.* ..... Measure for Measure  
*Mer. V.* ..... The Merchant of Venice  
*M.N.D.* ..... A Midsummer Night's Dream  
*Oth.* ..... Othello, the Moor of Venice  
*Per.* ..... Pericles  
*Phoen.* ..... The Phoenix and the Turtle  
*Pilgr.* ..... The Passionate Pilgrim  
*R2* ..... The Tragedy of King Richard II  
*R3* ..... The Tragedy of King Richard III  
*Romeo* ..... Romeo and Juliet  
*Shr.* ..... The Taming of the Shrew  
*Sonn.* ..... Sonnets  
*Tim.* ..... Timon of Athens  
*Tit.* ..... Titus Andronicus  
*Temp.* ..... The Tempest  
*Troil.* ..... Troilus and Cressida  
*Tw.N.* ..... Twelfth Night; or, What You Will  
*Ven.* ..... Venus and Adonis  
*W.T.* ..... The Winter's Tale  
*M.W.W.* ..... The Merry Wives of Windsor

## II. 聖 書 の 書 名

*Acts* ..... The Acts  
*Amos* ..... Amos  
*Cant.* ..... The Canticles (The Song of Solomon)  
*1 Chron.* ..... I. Chronicles  
*2 Chron.* ..... II. Chronicles  
*Col.* ..... Colossians  
*1 Cor.* ..... I. Corinthians  
*2 Cor.* ..... II. Corinthians  
*Dan.* ..... Daniel  
*Deut.* ..... Deuteronomy  
*Eccles.* ..... Ecclesiastes  
*Ephes.* ..... Ephesians  
*Esther* ..... Esther  
*Ex.* ..... Exodus  
*Ezek.* ..... Ezekiel  
*Ezra* ..... Ezra  
*Gal.* ..... Galatians  
*Gen.* ..... Genesis  
*Habak.* ..... Habakkuk  
*Hag.* ..... Haggai  
*Heb.* ..... Hebrews  
*Hos.* ..... Hosea  
*Isa.* ..... Isaiah  
*James* ..... James  
*Jer.* ..... Jeremiah  
*Job* ..... Job

*Joel* ..... Joel  
*John* ..... John  
*1 John* ..... I. John  
*2 John* ..... II. John  
*3 John* ..... III. John  
*Jonah* ..... Jonah  
*Josh.* ..... Joshua  
*Jude* ..... Jude  
*Judges* ..... Judges  
*1 Kings* ..... I. Kings  
*2 Kings* ..... II. Kings  
*Lam.* ..... The Lamentations  
*Lev.* ..... Leviticus  
*Luke* ..... Luke  
*Mal.* ..... Malachi  
*Mark* ..... Mark  
*Matt.* ..... Matthew  
*Mic.* ..... Micah  
*Nah.* ..... Nahum  
*Neh.* ..... Nehemiah  
*Num.* ..... Numbers  
*Obad.* ..... Obadiah  
*1 Pet.* ..... I. Peter  
*2 Pet.* ..... II. Peter  
*Philem.* ..... Philemon  
*Phillip.* ..... Philippians  
*Prov.* ..... The Proverbs

*Ps.* ..... The Psalms  
*Rev.* ..... The Revelation of John  
*Rom.* ..... Romans  
*Ruth* ..... Ruth  
*1 Sam.* ..... I. Samuel  
*2 Sam.* ..... II. Samuel  
*1 Thess.* ..... I. Thessalonians  
*2 Thess.* ..... II. Thessalonians  
*1 Tim.* ..... I. Timothy  
*2 Tim.* ..... II. Timothy  
*Tit.* ..... Titus  
*Zech.* ..... Zechariah  
*Zeph.* ..... Zephaniah  
  
*Bar.* ..... Baruch  
*Bel* ..... Bel and the Dragon  
*Ecclus.* ..... Ecclesiasticus  
*1 Esd.* ..... I. Esdras  
*2 Esd.* ..... II. Esdras  
*Jud.* ..... Judith  
*1 Mac.* ..... I. Maccabees  
*2 Mac.* ..... II. Maccabees  
*Manass.* ..... The Prayer of Manasseh  
*R. Esth.* ..... The Rest of Esther  
*Sus.* ..... Susannah  
*Tob.* ..... Tobit  
*Wisd.* ..... The Wisdom of Solomon

### III. 語源に関するもの

<	descended from,	<b>b.</b>	blend of, blended	<b>ger.</b>	gerund, gerundive	<b>pres.</b>	present
	derived from, from	<b>c.</b>	cognate with	<b>i.e.</b>	that is	<b>prob.</b>	probably
<<	descended,	<b>cf.</b>	compare	<b>imit.</b>	imitative	<b>prp.</b>	present participle
	derived from,	<b>comb.</b>		<b>impv.</b>	imperative	<b>ptp.</b>	past participle
	through intermediate	<b>form</b>	combining form	<b>indic.</b>	indicative	<b>r.</b>	replacing
	stages not shown	<b>comp.</b>	comparative	<b>inf.</b>	infinitive	<b>redupl.</b>	reduplication
>	whence	<b>contr.</b>	contraction	<b>irreg.</b>	irregularly	<b>repr.</b>	representing
=	equivalent to	<b>decl.</b>	declension	<b>lit.</b>	literally	<b>s.</b>	stem
?	origin unknown,	<b>dial.</b>	dialect, dialectal	<b>m.</b>	modification of	<b>sing.</b>	singular
	perhaps	<b>dat.</b>	dative	<b>masc.</b>	masculine	<b>sp.</b>	spelling
*	hypothetical	<b>deriv.</b>	derivative	<b>mod.</b>	modern	<b>subj.</b>	subjunctive
<b>abbr.</b>	abbreviation	<b>dim.</b>	diminutive	<b>n.</b>	noun	<b>superl.</b>	superlative
<b>abl.</b>	ablative	<b>eccl.</b>	ecclesiastical	<b>nom.</b>	nominative	<b>syll.</b>	syllable
<b>acc.</b>	accusative	<b>etc.</b>	etcetera	<b>north.</b>	northern	<b>trans.</b>	translating
<b>adj.</b>	adjective	<b>etym.</b>	etymology,	<b>obl.</b>	oblique	<b>transit.</b>	transitive
<b>adv.</b>	adverb		etymological	<b>obs.</b>	obsolete	<b>ult.</b>	ultimate, ultimately
<b>alter.</b>	alteration	<b>fem.</b>	feminine	<b>orig.</b>	origin, originally	<b>uncert.</b>	uncertain
<b>aph.</b>	aphetic	<b>fig.</b>	figurative	<b>pass.</b>	passive	<b>v.</b>	verb, verbal
<b>appar.</b>	apparently	<b>freq.</b>	frequentative	<b>perh.</b>	perhaps	<b>var.</b>	variant
<b>assoc.</b>	association	<b>fut.</b>	future	<b>pl.</b>	plural	<b>voc.</b>	vocative
<b>aug.</b>	augmentative	<b>gen.</b>	genitive	<b>prep.</b>	preposition		

### IV. 言語に関するもの

<b>AF</b>	Anglo-French	<b>Goth</b>	Gothic	<b>ModHeb</b>	Modern Hebrew	<b>OSw</b>	Old Swedish
<b>Afr</b>	African	<b>Heb</b>	Hebrew	<b>NL</b>	Neo-Latin	<b>PaG</b>	Pennsylvania
<b>AInd</b>	Anglo-Indian	<b>HG</b>	High German	<b>Norw</b>	Norwegian		German
<b>AL</b>	Anglo-Latin	<b>Hind</b>	Hindustani	<b>OBulg</b>	Old Bulgarian	<b>Pers</b>	Persian
<b>Amer</b>	American	<b>Hung</b>	Hungarian	<b>OCS</b>	Old Church	<b>Pg</b>	Portuguese
<b>AmerInd</b>	American Indian	<b>Icel</b>	Icelandic		Slavonic	<b>Pol</b>	Polish
<b>AmerSp</b>	American Spanish	<b>IE</b>	Indo-European	<b>ODan</b>	Old Danish	<b>Pr</b>	Provençal
<b>Ar</b>	Arabic	<b>Ind</b>	Indian	<b>OE</b>	Old English	<b>Pruss</b>	Prussian
<b>Aram</b>	Aramaic	<b>Ir</b>	Irish	<b>OF</b>	Old French	<b>Rom</b>	Romance
<b>Arm</b>	Armenian	<b>IrGael</b>	Irish Gaelic	<b>OFris</b>	Old Frisian	<b>Rum</b>	Rumanian
<b>Austral</b>	Australian	<b>It</b>	Italian	<b>OG</b>	Old German	<b>Russ</b>	Russian
<b>Bulg</b>	Bulgarian	<b>Jap</b>	Japanese	<b>OHG</b>	Old High German	<b>SAfrD</b>	South African
<b>CanF</b>	Canadian French	<b>L</b>	Latin	<b>OIcel</b>	Old Icelandic		Dutch (Afrikaans)
<b>Celt</b>	Celtic	<b>LaF</b>	Louisiana French	<b>OIr</b>	Old Irish	<b>Scand</b>	Scandinavian
<b>Chin</b>	Chinese	<b>LG</b>	Low German	<b>OIt</b>	Old Italian	<b>Scot</b>	Scottish
<b>D</b>	Dutch	<b>LGk</b>	Late Greek	<b>OL</b>	Old Latin	<b>ScotGael</b>	Scots Gaelic
<b>Dan</b>	Danish	<b>Lith</b>	Lithuanian	<b>OLG</b>	Old Low German	<b>Sem</b>	Semitic
<b>E</b>	English	<b>LL</b>	Late Latin	<b>ON</b>	Old Norse	<b>Skt</b>	Sanskrit
<b>EGmc</b>	East Germanic	<b>ME</b>	Middle English	<b>ONF</b>	Old North French	<b>Slav</b>	Slavic
<b>Egypt</b>	Egyptian	<b>Mex</b>	Mexican	<b>OPers</b>	Old Persian	<b>Sp</b>	Spanish
<b>F</b>	French	<b>MexSp</b>	Mexican Spanish	<b>OPg</b>	Old Portuguese	<b>SpAr</b>	Spanish Arabic
<b>Finn</b>	Finnish	<b>MF</b>	Middle French	<b>OPr</b>	Old Provençal	<b>Sw</b>	Swedish
<b>Flem</b>	Flemish	<b>MGk</b>	Medieval Greek	<b>OPruss</b>	Old Prussian	<b>SwissF</b>	Swiss French
<b>Fris</b>	Frisian	<b>MHG</b>	Middle High	<b>ORuss</b>	Old Russian	<b>Turk</b>	Turkish
<b>G</b>	German		German	<b>OS</b>	Old Saxon	<b>VL</b>	Vulgar Latin
<b>Gael</b>	Gaelic	<b>MPers</b>	Middle Persian	<b>OSlav</b>	Old Slavic	<b>WFlem</b>	West Flemish
<b>Gk</b>	Greek	<b>ML</b>	Medieval Latin	<b>OSerb</b>	Old Serbian	<b>WGmc</b>	West Germanic
<b>Gmc</b>	Germanic	<b>ModGk</b>	Modern Greek	<b>OSp</b>	Old Spanish		



DEVELOPMENT OF MAJUSCULE					
NORTH SEMITIC	GREEK	ETR.	LATIN	GOTHIC	MODERN ITALIC ROMAN
K	Α	A	A	A	A



DEVELOPMENT OF MINUSCULE					
ROMAN CURSIVE	ROMAN UNCIAL	CAROL MIN	GOTHIC	MODERN ITALIC	ROMAN
λ	α	α	a	a	a

ギリシア文字の *alpha* ( $\alpha$ , A) からエトルリア文字およびラテン文字を通して発達した英語アルファベットの第1文字。大文字 (A) の起源は、北セム語の *aleph* にまでさかのぼる。それがギリシア文字において現在用いられている字体となり、ラテン語の碑文に用いる字体にそのまま用いられた。小文字 (a) は、A の変形であるラテン語の草書体 *a* に由来するが、カロリナガ字体およびフロレンス字体の影響によって、今日用いられているイタリック体およびローマン体が生じた。

**A, a** [eɪ] *n.* (*pl.* **A's** or **As**, **a's** or **as**) 1 英語アルファベットの第1字(母音字)。2 A, a 字によって表わされる音 (*ate*, *tall*, *animal* の [ei] [oɪ] [æ] [ə] など)。3 A 字形の字。4 (印刷または手書きされた) A, a 字。5 (活字・スタンブなどの) A, a 字。

**from A to Z** (or **izzard**) 初めから終わりまで (from beginning to end); 完全に (completely): —*He knows the Bible from A to Z*. 聖書のことならすみずみからすみずみまで知っている。—*This is simply a dictionary, from A to Z*. これはどこをとってもまさしく辞典である。  
**not know from A to B** 何もしらない (know nothing); 無学文盲である (be ignorant).

**a!** [ɔː] [eɪ] *indefinite article*. ▶ 原則として単数名詞にかかる冠詞で、子音で始まる語の前では a となり、母音の場合には an になる。1 《数えることのできる単数名詞または単数グループを表わす語の前につけて》(1) 《初めて話題にのぼる名詞の前につけて》ある1つの、ある1人の: —*in a man*. —*a chemical* 化学薬品。—*a house* 家。—*Do you have a pen?* ペンを持っていますか。—*Ours is a large class*. 私たちのクラスは人数が多い。—*She is a Christian*. 彼女はキリスト教徒だ。▶ 日本語には訳せない。意味の場合が多い。(2) 《one》の意味をはっきり表わして》1つの、1人の、ただ1つの、ただ1人の: —*in a day* or *two* 一両日中に。—*One at a time, please*. 順番に願ってください。—*There was not a cloud in the sky*. 空には一片の雲もなかった。—*Rome was not built in a day*. (65) ローマは一日にして成らず。(3) ある (a certain, a particular): —*in a sense* ある意味では。—*A lady came to see me*. ある婦人がたずねてくれた。(4) 《同種類のもを代表して》いずれの、どの、[…というものは]なんでも (any): —*A cow is useful*. 牛は有用だ。—*The lake became a lake again*. その湖はまたただの湖にもどった。(5) …のよう: —*a saint of a man* 聖人のような人。—*an angel of a woman* 天使のような女。2 《固有名称と共に》(1) …という人; …家の人; …というふざけい人、のうな人: —*a Miss Johnson* ジョーンズという人。—*a Cicero in eloquence* 雄弁まさにキケロのごとき人。—*He is an Edison*. 彼はエジソンのような大発明家だ。—*He was a Mr. Read, a lawyer*. リードさんとかいう弁護士だった。—*He is a Smith*. あの人はスミス家の人です。—*A Jesus makes a Judas inevitable*. キリストあればユダあり。(2) 《芸術品・製品を表わして》…の作品, …の製品: —*a Rodin* ロダンの作品。—*They presented a Ford to the President*. 大統領にフォード製の乗用車を贈った。3 《通例 the を冠する唯一物のある一様相を表わすとき》: —*a crescent moon* 三日月。—*a moon like a sharp sickle* 利剣(さ)のような月。—*A bright moon was shining high above us*. 頭上高く明るい月が照っていた。—*What a sky!* 何といす(すばらしい, すごい)空だろう。4 すばらしい, みごとな (such, such a wonderful): —*She has a leg (voice)!* 彼女は実にダンス(歌)がうまい。—*It was a sight that would make angels rejoice*. 見れば天使でも喜ぶようなすばらしい光景だった。▶ 此の場合 [ei] と発音する。

5 《数量形容詞・数詞などと結びついて一つのまとまった意味を表わすとき》: —*a dozen times* 12 回。—*a great many years* ずっと長年。—*a few stars* 少数の星。—*A six years is not so long*. 6年間はもう長い年月ではない。(Six years are … となる) どの年々の年を強調する。6 《序数の前につけて》: —*He tried to jump up a third time*. もう一度飛び上がろうとした。▶ 3度目ということよりも、一度、また一度、さらにもう一度という含みで用いる。

7 《形容詞の最上級が名詞を修飾する場合、その前につけて》: —*It was a most beautiful sight*. それはとても美しい光景だった。

8 《形容詞の最上級や序数と、修飾される名詞とが密接に結合しているもの前につけて》: —*a best seller* ベストセラー。—*a first-nighter* 初日の常連。

9 …につき, 毎… (per). —*a<sup>2</sup>*.

10 《抽象名詞を普通名詞化して, 種類・実例・行為などを表わして》: —*Would you do me a kindness?* お願ひがあるのですが。—*I have a doubt about it*. それはどうかと思う。—*It was a luxury for children*. それは子供らにとってぜいたくなものだった。—*Literature was a comfort to her*. 文学が彼女には慰めであった。

11 《物質名詞につけて, それを普通名詞化して》1つの, 一種の: —*a glass* コップ。—*Give me a coffee*. コーヒーを1杯ください。—*A fire broke out last night in my neighborhood*. 昨夜近所に火事があった。

12 同一の (one and the same): —*We were all of a mind*. みんな一つ心だった。—*Birds of a feather flock together*. (65) 類は友を呼ぶ。—*You and I are two of a kind*. 君とぼくとは似た者どうしだ。

13 《特別な色合いを表わして》: —*Her hair was a reddish brown*. 彼女の髪の色は赤みがかった茶色だった。[ME; phonetic var. of an<sup>1</sup>]

— **Usage**. (1) a (an) は原則として, 名詞のいかなる修飾語よりも先にくる。a (an) + (副詞 +) 形容詞 + 名詞の語順をとる: —*a gray sky* [どんより曇った空]。—*a smart little uniform* [スマートでかっこいい制服]。—*a kind-looking middle-aged government officer* [親切そうな中年の政府の役人]。—*a piece of comfortable well-made furniture* [こぢりばい, よくできた家具1点]。(2) ただし, quite, such, so, 時には half, rather も a に先行する: —*quite a good one* [とてもよいもの]。—*such a lovely girl* [たいへんかわいい少女]。—*so beautiful a jewel* [とても美しい宝石]。—*half an hour* [半時間]。cf. (米) a half hour. —*rather a queer fellow* [一風変わったやつ]。

**a<sup>2</sup>** [ɔː] [eɪ] *prep.* それぞれの (each); 毎… (every); …につき (per): —*ten cents a dance* 一踊り10セント。—*three times a day* 1日3回。▶ 不定冠詞として扱う場合もある。[orig. a, prep. var. of on (→ a<sup>1</sup>); confused with a<sup>1</sup>]

**a<sup>3</sup>** [ɔː] *prep.* 《話または視覚方言》= of 《しばしばハイファンなしに語の一部として書く》: —*cloth a gold* 金糸織り。—*time a day* 時刻, —*kinda* …のような (kind of)。—*sorta* いくらかは (sort of), [or<sup>1</sup>] の変形。

**a<sup>4</sup>** [ɑː, ɔː] *adj.* (スコットランド) = a<sup>1</sup>。  
**a<sup>5</sup>** [ɑː, ɔː] *adj.* (スコットランド) = all: —*for a' that* それにもかかわらず。(また a)

**A** [æ] 1 《電気》 ampere. 2 《物理》 angstrom. 3 answer.

**A 1** (順序・連続したものの) 1番目, 第1番のもの: —*Table A* 第1表, A 表。2 《(時に a)》(成績評価法で) 最高合格成績を表わす: —*an A student* 優等生。—*He got an A in physics*. 物理が優だった。—*You received all A's in high school*. 高校の時は全優だったね。3 《(時に a)》(学年が2学期制の学校で) 第1期。4 《(血液型の) A 型》。5 《音楽》(1) イ音・長調の第6音またはイ短調の第1音。(2) イ音の弦(鍵(C), 管)。(3) イ音の音符。(4) (ドレミ唱法の) 長調音階の第6音, ラ (la)。(5) イ音を主音とする調: —*A major* (minor) イ長調(短調)。6 《(時に a)》(ローマ数字の) 50 または 500. cf. **Roman numerals**. 7 《化学記号》 argon. 8 《化学》《物理》 mass number. 9 《論理》 universal affirmative. 10 《英》(1) (公衆電

話で) ボタンの上の A 表示。◆ これを押すとかけた人の声が相手に聞こえるようになる。(2) 成人向き映画を示す表示。cf. **U 4**, **X 7**. 11 A サイズ: 靴幅の標準寸法の一つ; B より狭く AA より広い。12 ブラジャーのカップ部分の寸法の一つ; B より小さく AA より大きい。13 (男子用) バジャマの大きさを小 (small)。

**a** [æ] 1 are<sup>2</sup>: ares. 2 universal affirmative.  
**Å** [略] 《物理》 angstrom unit.

**A-** 《結合語で》 = atomic: —*A-plant* 原子力工場。—*A-ship* 原子力艦。

**a-<sup>1</sup>** 古英語前置詞 *on* の縮小形; on, in, into, to, toward の意。(1) 名詞の前につけて, 叙述形容詞または副詞をつくる: —*afoul*, *abed*, *ashore*, *aside*。(2) 古語や方言で現在分詞の前につけて: —*set the bells aringing*. [ME, late OE]

**a-<sup>2</sup>** 古英語前置詞 *of* の縮小形: —*abain*, *afresh*, *anew*. [ME]

**a-<sup>3</sup>** 点動作 (point-action) を示す接頭辞; 行為全体ではなくある行為の初めか終りに関係がある: —*She awoke*. 彼女は目をさました (became awake)。—*They abided by these conclusions*. 彼らは最後までこの結論を変えなかった (remained faithful to the end). [ME; OE *ā*; in some cases confused with a-<sup>5</sup>, as in ABBRIDGE]

**a-<sup>4</sup>** p, v の前での **ab-** の異形: —*aperient*, *avert*. [ME < L *ā*, a- (var. of *ab-* *ab-*); in some words < F *a-* < L *ab-*, as in ABBRIDGE]

**a-<sup>5</sup>** **ad-** の異形。(1) *sc*, *sp*, *st* の前で: —*ascend*。(2) しばしば増加 (increase), 追加 (addition) の意で, フランス語を語源とするものにみられる: —*amass*. [ME, in some words < MF *a-* < L *ad-* prefix or *ad* prep. (→ *ad-*), as in *abut*; in others < L *a-* (var. of *ad-* *ad-*), as in *ascend*]

**a-<sup>6</sup>** 子音の前での **an-<sup>1</sup>** の異形: —*achromatic*.  
**-a** ギリシア語およびラテン語から借用の名詞の複数形語尾: —*phenomena*, *criteria*, *data*, *errata*.

**A**. (略) 1 Absolute. 2 Academy. 3 acre. 4 America. 5 American. 6 angstrom unit. 7 《ラテン語》 anno (year). [*<* L, abl. of *annus*] 8 answer. 9 《ラテン語》 ante (before). 10 April. 11 Artillery.

**a**. (略) 1 about. 2 acre; acres. 3 active. 4 adjective. 5 alto. 6 amperer. 7 《ラテン語》 anno (year). [*<* L, abl. of *annus*] 8 anonymous. 9 answer. 10 《ラテン語》 ante (before). 11 《メートル法》 are. 12 《野球》 assist; assists.

**A-1** = A one.

**a-a** [ɑːɑː] *n.* アア [式] 溶岩: 表面のあらい玄武岩質溶岩. cf. **paohoehoe**. [*<* Hawaiian *a'a*]

**AA** (略) 1 Alcoholic Anonymous. 2 author's alteration

**AA** AA サイズ. 1 靴幅の標準寸法の一つ; A より狭く AAA より広い。2 ブラジャーのカップ部分の最小寸法表示。

**aa** (略) 《ギリシア語》(処方せんで) *ana* 各同量に, 等量に (of each). (また **aa**)

**A.A.** (略) 1 Alcoholic Anonymous. 2 anti-aircraft. 3 anti-aircraft artillery. 4 Associate in Accounting. 5 Associate of Arts, Associate in Arts. 6 (また **AA**) author's alteration.

**AAA** (略) 1 Agricultural Adjustment Administration. 2 Amateur Athletic Association. 3 American Automobile Association. 4 anti-aircraft artillery. 5 Automobile Association of America.

**AAA** AAA サイズ: 靴幅の標準寸法の一つ; AA より狭く AAAA より広い。